

36破棄・非協力から減産肉争へ突入せよ！

一月十八日、佐倉支部は、機関区講習室において七〇名を結集して「検修合理化粉碎」職場集会を開催し、大詰を迎えた対当局への交渉を職場からの決起でうちぬいていく体制をうち固めました。

集会は、田中書記長の司会で始められ、挨拶にたつた堀口支部長は、「動労『本部』が働こう運動で全面屈服する中で、国鉄当局はカサにかかつて貨物合理化・検修大合理化を強行してきている。『57・11ダイ改』での機関車減に続いての今回の下回り合理化は、管内検修職場から百数十名の仲間を奪う大合理化であり、絶対認められない。今日、鉄労以下になり下って当局の最も忠実な先兵となつている動労『本部』派を解体・一掃せずして職場を守っていくことはできない。交渉と職場の決起で当局を追い込んでいこう」と決意のこもつた挨拶を行いました。

本部を代表して西森法対部長より挨拶があり、能勢副支部長より団交経過の報告、又、本部森内特執より検修合理化をめぐる情勢と闘いの方向性がそれぞれ詳細に述べられた。熱心な質疑討論の後、検修職場の主体である青年部を代表して佐藤副青年部長がキッパリと決意表明し、最後に堀口支部長の団結カンパローをもって終了し、総決起の体制へと入つていきました。

佐倉支部で職場集会開かれる

佐倉支部通信員・発

検修下回り合理化反対・ 運転保安確立のため

- 動労千葉闘争指令 第六号（一九八三・一・二八）
- 一、各支部は、二月一日以降当分の間、全組合員を対象とする三六協定破棄・非協力行動を実施すること。
 - 二、各支部は、二月二日〇時より二月三日二四時迄、全地上勤務者を対象とする減産（A）行動を実施すること。
 - 三、各支部は、二月三日〇時より二四時まで、全乗務員を対象とする減産（A）行動を実施すること。

幕張支部検査分科会 総会ひらかる

幕張支部通信員・発

支部分科会は、一月二十一日第三回総会を講習室で開催し、検修合理化粉碎の闘う方針を決定した。連日の「下回り」交渉を先頭で闘う動労千葉本部検査検修分科会長の齊藤常男氏から、交渉の現状が詳しく報告され、怒りをこめた闘いへの決意が表明されると、参加者一同から「そうだ！」「と言つた声がとびかつた。議長に高橋昌夫氏を選出し、テキパキとした議事運営で多くの議題が討論・決定されていった。「総括と方針」は木村勇支部検査分科会会長が提起、大むね次のような方針が決定された。

- 一、下回りをはじめとする合理化には断固対決して闘う。国鉄労働運動破壊を許さない。
- 二、合理化の先兵となり、国労解体攻撃を開始した動労「本部」革マルを粉碎し、闘う国鉄労働者の団結を拡げよう。
- 三、増税と行革と生活破壊、軍拡と改憲の反動中曾根内閣を打倒しよう。
- 四、反合と結合し、三里塚二期阻止、反戦、反核、中江・北原候補の必勝を勝ち取る。

以上の方針が満場一致確認された。検査・検修の仲間の組織統合をもめざし、職場の総決起をつくり出していく決意である。共にカンパロー！



（決意表明に立つ検査検修分科会
斉藤会長と林事務長。
1・24 局前総決起集会）

検修合理化2・1強行実施許すな

昨秋より闘い続けてきた検修合理化粉碎の闘いは、一月二十四日以降、全支部で非協力・減産闘争の準備体制を確立するとともに、検修職場では連日職場集会を積み重ね、青年部も一月二十四日に、「検修合理化粉碎」の局前総決起集会を闘ってきた。

職場代表も多数つめかけて、団体交渉を強化し、当局を厳しく追及してきたが、検修業務の外注化と見直し提案の具体的内容、とりわけ機動検査班・交検の要員削減・派出車検の廃止をめぐる真向から対立したまま、当局は「二月一日強行実施」を狙っている。こうした情勢から、一月二十八日、本部は組合要求を最大限獲得するため、以下の闘争指令を発した。



中江選挙闘争に必勝し、
反動中曾根内閣を打倒しよう
「一人5票獲得運動」貫徹！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊
動労千葉

83, 1, 31
No. 1254

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七